

情報機器の利用実態調査

—デジタルネイティブ世代への生徒指導—

生徒指導部 堀田景子

現在の高校生は、いわゆるデジタルネイティブ世代であり、ものごころついたときからインターネットを代表とするメディア環境の中で生活している。そういった生徒たちへの生徒指導を考えるきっかけとして、また、Classi の導入にあたり、今後そのサービスを有効に活用していくためにも、情報機器の利用実態調査を行い、その結果から課題を探った。

本校の生徒がインターネットへ接続する情報機器はスマートフォンが主流であり、愛知県の調査や内閣府の調査とも同様である。そして、スマートフォンでは音楽を聴いたり、動画を見たり、ゲーム、プロフやブログ、コミュニティサイトでのメッセージの送受信など、多様な使い方をしていた。また、自分のプロフやブログ、その他 SNS を公開したことがある割合、さらに、自分の氏名や学校名を書き込んだり写真を載せたりしたことがある割合ともに半数を超えていた。そこでの情報モラルに関する設問では、ルールやマナーを大切にしていると思うと答えた生徒が 90%以上である一方、自分のブログ等にアニメのキャラクターやタレントの写真を掲載することについて、よいと思っている生徒は半数を超えていた。これらの結果から、情報モラルに関して適正な判断や行動が取れるような正しい知識の習得や適切な指導が必要であるといえる。さらに、Classi の利用については、年度途中の導入でもあり、まだ手探りであることが、生徒の利用頻度と関係していると思われる。様々なサービスを積極的に活用していくためには、生徒の自主的な活動に委ねるのではなく、教員側、学校側がアプローチや体制作りをしていくことが、今後の積極的な活動へとつながっていくのではないかと考えられる。

スマートフォンを使って SNS 等のネットワーク上でコミュニケーションを取ったり、情報発信をしていくことが生徒の日常である現状からすると、情報機器はコミュニケーションや学習を促進することができる道具の一つと捉えていかなければならない。それを踏まえた上での、メディアリテラシー教育や指導、学校での情報機器のあり方について考えていかなければならないだろう。

<キーワード> デジタルネイティブ スマートフォン SNS Classi コミュニケーション
情報モラル メディアリテラシー

1 はじめに

内閣府による「平成 29 年度青少年のインターネット利用環境実態調査」によると、インターネット接続機器を利用しているかという設問に対し、高校生では 98.6%がいずれかの機器を利用していると回答し、この結果は平成 26 年度からほぼ横ばいである。また、その中で 95.9%がスマートフォンを利用しており、インターネットへの接続機器としてはタブレット端末やパソコンなどの他の情報機器よりも圧倒的に利用割合が高い¹⁾。情報機器やインターネットの利用率は平成 26 年度以降の調査以降横ばいであるのに対し、スマートフォンの利用率は、高校生でも 10%近く上昇しており、この数年間でもスマートフォンの利用率は増加傾向にある。さらに、現在の高校生が小学生の頃である「平成 23 年度版 情報通信白書」によると、6 歳から 12 歳の小学生のインターネット利用率は 65%を超えている²⁾。これ

らの調査からも、現在の高校生は、生まれたとき、あるいはものごころついたときからインターネットを代表とするメディア環境の中で生活している、いわゆるデジタルネイティブ世代であり、その情報機器の代表としてスマートフォンがかなり浸透している。

また、本校では、本年度より第1学年、第2学年に、学校向けの「学習支援プラットフォーム」、いわゆる Classi を導入した。2020年の入試改革に伴って、eポートフォリオの作成および活用等を見越しての導入である。Classiは生徒、保護者、教員が相互に利用できるクラウドサービスであり、パソコン、タブレット端末、スマートフォンの各情報機器からアクセスできるようになっている。このサービスを今後有効に活用していく上でも、また、デジタルネイティブ世代である高校生への生徒指導を考えていく上でも、本校生徒の情報機器の利用状況等を把握することが必要であると考え、本校における情報機器利用の実態調査を行い、生徒の情報機器に対する意識を明らかにし、そこから課題を探ることを目的とする。

2 調査概要

(1) 調査対象

対象者は第1学年200名、第2学年201名の計401名である。

(2) 調査方法

時期は12月末とし、回答には約1週間の期限をもうけ、Classiのプラットフォーム上で行った。

(3) 調査項目

愛知県総合教育センターでは3年ごとに、小学校、中学校、高等学校の児童生徒を対象に「児童・生徒の情報機器利用の実態調査」を行っている。本校においても同様の調査を実施し、比較検討の材料とする。また、別にClassiの利用に関する設問も設けた。

回答はすべて選択式で行った。

3 結果

(1) 回答率

1年生197名、2年生201名、計398名が回答した。回答率は99.3%であった。男女比は男子39.2%、女子60.1%であった。

(2) 自分専用の情報機器およびインターネットに接続する情報機器

「自分専用の携帯電話」42.9%、「自分専用のスマートフォン」54.6%、「携帯電話やスマートフォンを普段使わない」は4名の1.0%であった。

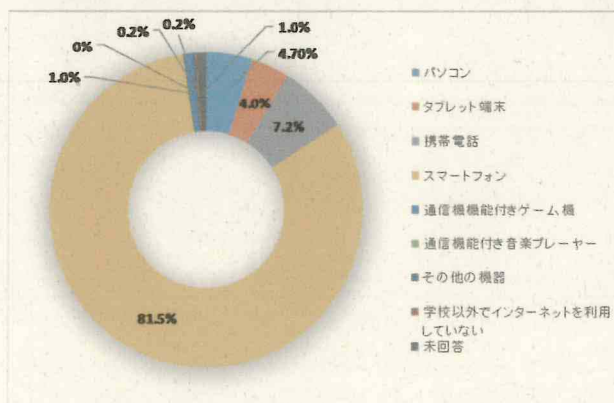
自分専用のパソコンやタブレット端末をよく使う生徒は28.9%であり、パソコンやタブレット端末をほとんど使わない生徒は44.1%であった。

また、学校以外でインターネットを利用する主な機器は、「スマートフォン」が81.5%で最も多かった。

(3) 自分専用の携帯電話やスマートフォンを持った時期

図1
あなたは、ふだん学校以外でインターネットを利用するのは、主に次のどの機器ですか。

1 パソコン	4.70%
2 タブレット端末	4.0%
3 携帯電話	7.2%
4 スマートフォン	81.5%
5 通信機能付きゲーム機	1.0%
6 通信機能付き音楽プレーヤー	0%
7 その他の機器	0.2%
8 学校以外でインターネットを利用していない	0.2%
9 未回答	1.0%



「高校1年生以降（中学3年生の卒業式以降を含む）」が32.2%で一番割合が高く、次いで「中学1年生（小学6年生卒業式以降を含む）」が18.5%の割合であった。また、小学校在学中に所持した割合は20.9%で、中学校在学中に所持した割合は、45.7%であった。

図2

あなたが初めて自分専用の携帯電話やスマートフォンを持ったのはいつですか。

1 小学3年生以前	3.2%
2 小学4年生	3.5%
3 小学5年生	6.5%
4 小学6年生(卒業式まで)	7.7%
5 中学1年生(小学6年生卒業式以降を含む)	18.5%
6 中学2年生	12.5%
7 中学3年生(卒業式まで)	14.7%
8 高校1年生以降(中学3年生卒業式以降を含む)	32.2%
9 持っていない	0.5%
10 未回答	0.7%

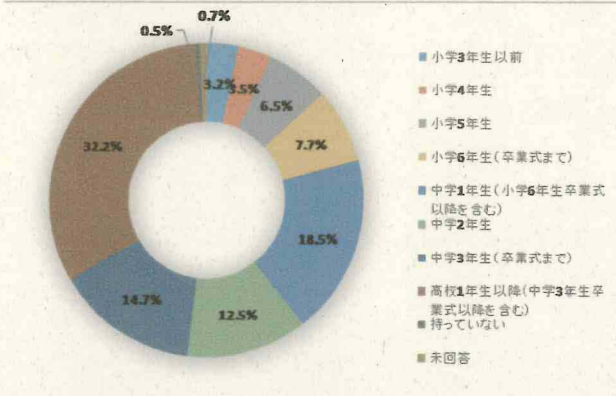
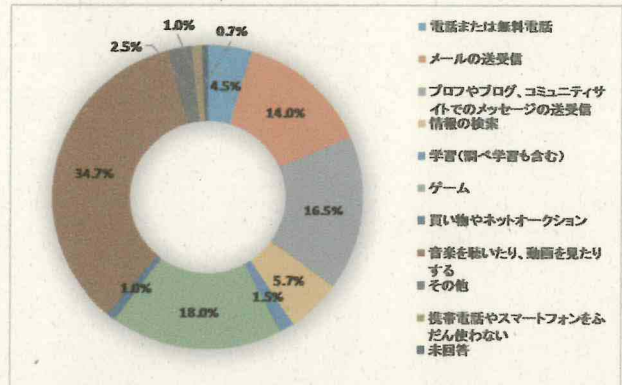


図3

携帯電話やスマートフォンで一番よくしていることは、次のどれですか。

1 電話または無料電話	4.5%
2 メールの送受信	14.0%
3 ブログやブログ、コミュニティサイトでのメッセージの送受信	16.5%
4 情報の検索	5.7%
5 学習(調べ学習も含む)	1.5%
6 ゲーム	18.0%
7 買い物やネットオークション	1.0%
8 音楽を聴いたり、動画を見たりする	34.7%
9 その他	2.5%
10 携帯電話やスマートフォンをふだん使わない	1.0%
11 未回答	0.7%



(4) 携帯電話やスマートフォンで一番よくしていること

「音楽を聴いたり、動画を見たりする」が34.7%で最も多く、次いで「ゲーム」の18.0%、「ブログやブログ、コミュニティサイトでのメッセージの送受信」の16.5%であった。

(5) 1日の利用時間

携帯電話やスマートフォンの利用時間は「1時間～2時間未満」が26.9%、「2時間から3時間未満」が28.4%であった。5時間以上利用しているのは7.7%であった。

また、インターネットの1日の利用時間は、「1時間～2時間未満」が24.4%、「2時間から3時間未満」が12.5%であり、「30分から1時間未満」が19.7%、ほとんど利用しないも18.7%であった。

(6) 保護者と決めたルール

「ルールがあり守っている」が44.4%、「ルールがない」が44.9%であり、「ルールはあるがあまり守っていない」が8.5%であった。

(7) 情報機器が気になって、やるべきことができなくなることがあるか

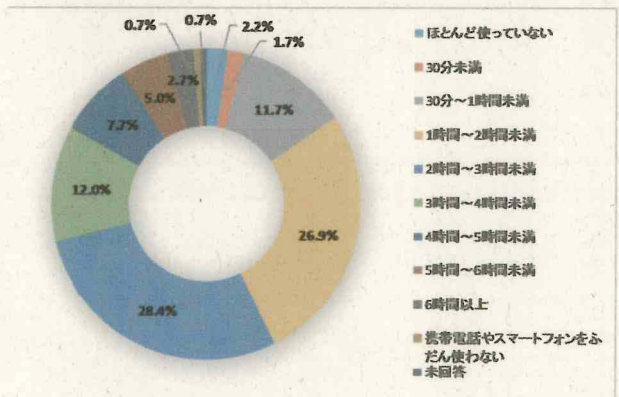
「よくある」が20.2%、「少しある」が40.9%であった。「あまりない」は28.9%、「全くない」が8.5%であった。

(8) インターネットで知り合った人とのメッセージの送受信および子どもだけで会った経験

図4

あなたは、携帯電話やスマートフォンについて、最近1週間(平日のみ)で、1日平均での利用時間はどのくらいですか。

1 ほとんど使っていない	2.2%
2 30分未満	1.7%
3 30分～1時間未満	11.7%
4 1時間～2時間未満	26.9%
5 2時間～3時間未満	28.4%
6 3時間～4時間未満	12.0%
7 4時間～5時間未満	7.7%
8 5時間～6時間未満	5.0%
9 6時間以上	2.7%
10 携帯電話やスマートフォンをふだん使わない	0.7%
11 未回答	0.7%



インターネットで知り合った人とのメッセージの送受信は、「まったくない」、「ほとんどない」と回答した割合は70.3%であった。一方で、「ほとんど毎日」、「週5日程度」、「週2日程度」の少なくとも週に何日かはメッセージの送受信をしている割合は、28.9%であり、中でも「ほとんど毎日」の割合は13.0%であった。

また、インターネットで知り合った人と子どもだけで会った経験が「ある」のは、11.5%、「ない」が87.8%であった。

(9) 一番良く利用するコミュニティーサイト

「LINE」が52.1%で最も多く、次いで「Instagram」が20.4%、「Twitter」が19.7%であった。その他のサイトも含め、「利用しない」と回答した割合は2.0%であった。

(10) 自分のプロフやブログ、その他 SNS の公開、また自分や友人、知り合いの個人情報について

自分のプロフやブログ、その他 SNS を公開したことが「ある」割合は59.6%であり、自分の氏名や学校名を書き込んだり写真を載せたりしたことが「ある」割合は54.6%であった。同様に友人や知り合いのを載せたことが「ある」割合は41.9%であった。

(11) SNS で悪口を書かれたことがあるか。

また、インターネットで嫌な思いをしたことがあるか。

悪口を書かれたことが「ある」のは14.5%、「ない」が84.8%また嫌な思いをしたことが「ある」のは8.5%、「ない」のは90.3%であった。

(12) インターネットで困ったことや嫌な思いをしたら誰に相談するか

「保護者」が50.1%で最も多く、次いで「友達」が31.4%であった。また「誰にも相談しない」割合は8.7%であった。

(13) 動画サイトへのアップロード等

個人的に録画したテレビドラマを動画サイトにアップロードすることについて、「よいと思う」と「まあよいと思う」と回答した割合は22.9%で「あまりよくないと思う」が39.7%、「よくないと思う」が36.4%であった。

図5 あなたが一番よく利用するコミュニティーサイトは次のどれですか。

1 Facebook	1.0%
2 Google+	1.7%
3 GREE	0.2%
4 LINE	52.1%
5 mixi	0.0%
6 Mobage	0.2%
7 Twitter	19.7%
8 Instagram	20.4%
9 ゲーム機で利用できるサイト	0.2%
10 その他	1.5%
11 利用しない	2.0%
12 未回答	0.7%

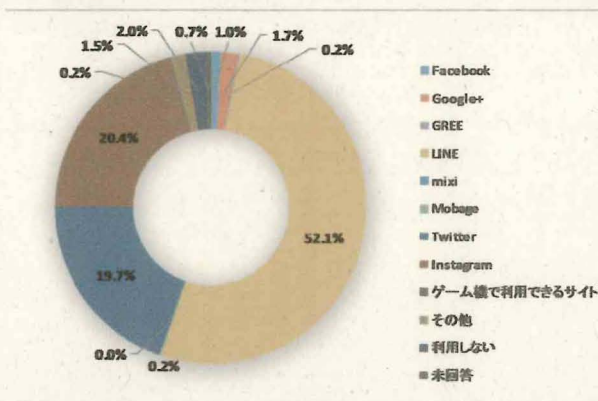


図6 あなたは、これまでに自分のプロフやブログ、Twitter、Facebook、Instagram を公開したことがありますか。

1 ある	59.6%
2 ない	39.7%
3 未回答	0.7%

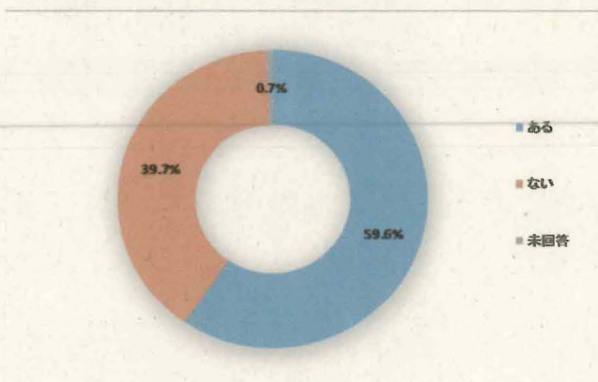
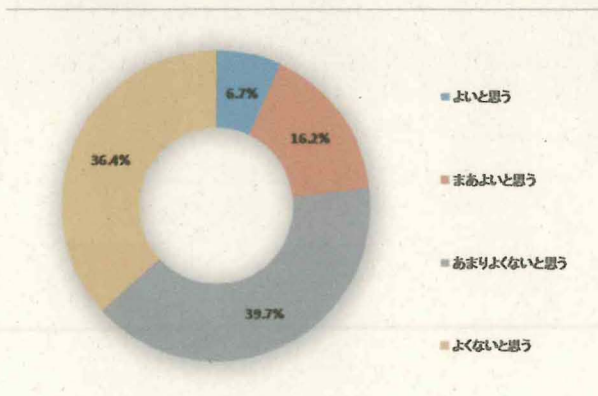


図7 個人的に録画したテレビドラマを動画サイトにアップロードすることについて、どう思いますか。

1 よいと思う	6.7%
2 まあよいと思う	16.2%
3 あまりよくないと思う	39.7%
4 よくないと思う	36.4%



動画サイトや音楽サイトの著作権者の許可なくアップロードされたものを自分のパソコン等にダウンロードをすることについて、「よいと思う」と「まあよいと思う」と回答した割合は 14.7%で「あまりよくないと思う」が 39.9%、よくないと思うが 44.4%であった。アニメのキャラクターやタレントの写真を掲載することについては、「よいと思う」と「まあよいと思う」が 52.9%で、「あまりよくないと思う」が 29.9%、「よくないと思う」が 16.0%であった。

(14) 情報機器を利用する上で最も心配していること

「個人情報の漏洩」が 54.4%で最も多く、次いで「詐欺」の 19.2%であった。

(15) 携帯電話やスマートフォンが自分の生活になくてはならないものだと思うか

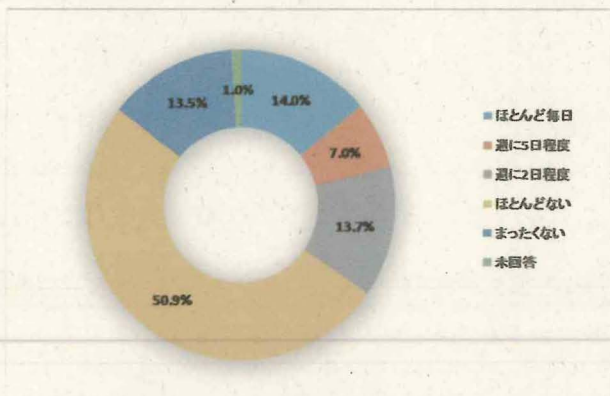
「強く思う」が 48.6%、「少し思う」が 39.4%であった。「あまり思わない」や「全く思わない」は 10.2%であった。

(16) Classi を利用する時の情報機器や端末、利用頻度、利用コンテンツについて

「スマートフォンのアプリケーション」が 78.1%で最も多く、次いで「スマートフォンのインターネット」が 14.0%であった。利用頻度は、ほとんど「毎日」と「週に 5 日程度」が 21.0%で、「週に 2 日程度」が 13.7%、「ほとんどない」が 50.9%であった。最もよく利用しているコンテンツは、「学習記録」が 34.4%で、次いで「成績カルテ」の 20.2%であった。さらに、今後積極的に活用していきたいものは、「学習動画」が 22.2%、「成績カルテ」が 20.9%、「学習記録」が 15.7%、「Web ドリル」や「Web テスト」が 22.7%であった。

図8
あなたは、Classiを平均してどれくらい利用していますか。

1 ほとんど毎日	14.0%
2 週に5日程度	7.0%
3 週に2日程度	13.7%
4 ほとんどない	50.9%
5 まったくない	13.5%
6 未回答	1.0%



4 考察

(1) 情報機器の利用について

平成 27 年度の愛知県の調査では、学校以外でインターネットを利用する機器の割合としてスマートフォンが 72.7%であり³⁾、本校の調査では 81.5%であった。愛知県の調査結果が平成 27 年度のものであることから、スマートフォンでインターネットへ接続する生徒は、内閣府の調査結果と同様に増加傾向と考えられる。また、内閣府の調査において、平成 26 年度から 29 年度への機器ごとのインターネット利用状況の経年変化をみると、高校生においてはスマートフォンの割合が増加し、携帯電話とパソコンの割合は減少している。本校でも、パソコンやタブレット端末をほとんど使わない生徒も多い。これらの結果からも、今後もインターネットへの接続は、スマートフォンが主な機器となるだろう。

そして、自分専用の携帯電話やスマートフォンを所持する時期には小学校を卒業して中学に入学する時と、中学を卒業して高校に入学する時の大きく二つのタイミングがあることがわかった。また、本調査では、携帯電話かスマートフォンのどちらかは不明であるが、高校入学時までには 65%を超える生徒がインターネットへ接続できる自分専用機器を所持していることから、情報モラル教育等は高校では遅すぎるのではないのかと懸念される。内閣府の調査でもインターネットの利用率の低年齢化は進んでおり、平成 27 年度の愛知県の調査と比較しても、本年度に実施した本校の結果の方が、自分

専用の情報機器を所持する時期は早まっていることから、より低年齢化していくことが予想される。それに対して、フィルタリング機能や家庭でのルールといった保護者が子どものインターネット接続状況に関与することへの回答を見ると、「フィルタリングをしている」が 35.7%、保護者との「ルールがあり、守っている」が 44.4%と半数にいかない。また、内閣府の調査では、子どもと保護者で「ルールが守れている」という認識に 20%以上の差がみられた⁴⁾。これらの実態調査からも、より低学年での情報リテラシー教育の導入と、自らが判断できる能力の育成が必要であると考えられる。

また、携帯電話やスマートフォンの利用時間は 2 時間～3 時間の生徒が多いが、インターネットに接続をしていない状態で音楽視聴を行ったり、写真を撮ったりといった使い方をしている生徒も多いのではないかと推察される。平成 27 年度の愛知県の調査ではゲーム機や音楽プレーヤーをほとんど使わないと回答した割合は約 30%であったが⁵⁾、本年度の本校の調査では 40%を超えている。このことから、かつてはそれぞれ個別でその機能を有していたものが、現在はスマートフォン一つであらゆることができるようになり、音楽を視聴したり、ゲームをするなど、多様な使い方をしていることが多くなっていると考えられる。

(2) 情報機器によるコミュニケーションについて

内閣府の調査においては、高校生は情報機器を利用したコミュニケーション（メール、メッセージ、ソーシャルメディア）が音楽視聴や動画視聴よりも利用割合が多い結果となっている⁶⁾。愛知県の調査や他の高校での調査においても、携帯電話やスマートフォンで一番よくすることとして、音楽や動画視聴とコミュニティサイトでのメッセージの送受信はほぼ同数である⁷⁾。これらの結果と比較すると、本校の生徒はプロフやブログなど、コミュニティサイトでのメッセージの送受信を行っている割合が少ないといえる。しかし、約 60%がコミュニティサイトを公開した経験があり、Instagram や Twitter といった不特定多数の人と交流可能なサイトを一番よく利用していると答えている生徒も約 40%いる。これらのいずれも不特定多数、または、個人同士で直接メッセージを送り合うことができ、機能としても写真やメッセージ等で個人情報をコミュニティ内でオープンにすることも可能である。さらに、約 30%の生徒がインターネットで知り合った人とのメッセージの送受信を週に何回かは行っている。このことから、生徒の友人、知人、それ以外の人とのコミュニケーション手段として、これらのサイトは主要ツールと言える。

生徒がよく利用する LINE や、Instagram、Twitter などのソーシャルネットワーキングサービス（以下 SNS）は、その情報源である個人間の人間関係、あるいはコミュニケーション過程が明示化されることによって、信頼性が高いものとされるが、一方でこれが個人情報を安易にネットワーク上でさらすことにもなる。特に未成年などコンピュータのリテラシーが十分でない層では過剰な情報公開が犯罪を誘発しやすい状況になっているとされる⁸⁾。本校の生徒においても、SNS を利用している者の中で、50%を超える生徒が自分の個人情報を掲載している。これらのことから、SNS をツールとしたコミュニケーションのあり方やリテラシーへの注意喚起に関しては、不十分であると言わざるをえない。また、一般の高校生よりも、本校の生徒はコミュニティサイト等を利用している割合は少ないにも関わらず、コミュニティサイト等で悪口をかかれたり、個人情報を流されたり、交際を求められるような書き込みをされた経験を持つ生徒も少なくない。これらの実態からも、犯罪に巻き込まれることがないように、十分注意させていくとともに、困ったことがあった場合に約半数の生徒が保護者に相談すると答えていることから、保護者への注意喚起も同時におこなっていく必要性を感じる。

(3) 情報モラルについて

トレンドマイクロ社が行った調査によると、友人知人が勝手に自分の情報や写真を Facebook で公開した場合にどう思うかという質問には 9 割が不快感を示している⁹⁾ことから、友人知人の情報の公開は思わぬトラブルを招くこともある。それ以外にも、個人情報や人権問題や知的財産権、プライバシー権、肖像権などの権利侵害だけでなく、著作権法や個人情報保護法、出会い系サイト規制法など法律や条例に抵触する可能性もある。本校の調査でも、自分の個人情報のみならず、友人や知人の情報を公開している生徒が 40%以上いる。また、個人的に録画したテレビドラマを動画サイトにアップロードすることや、著者の許可なくアップロードされたものをダウンロードすること、タレントの写真を掲載することなどに対して、少なからずよいと思っている生徒がいるが、多くの生徒はよくないと考えている。一方、自分のブログ等にアニメのキャラクターやタレントの写真などを掲載することについては 50%を超える生徒が「まあよいと思う」も含めて「よい」と肯定的にとらえている。これらのことから、情報を受信する際の危機意識やモラルへの認識はある程度備わっているが、情報を発信する際に、他人の権利や財産等を脅かす恐れがないか、また、社会のルールや法律を理解し、守れているかといった側面からは、今後指導が必要である。

(4) Classi について

本校での Classi 導入は本年度の 7 月であり、実質的に稼働させはじめたのは、2 学期に入ってからである。年度途中であったことや、その利用の仕方や有効な活用方法については、まだ手探りな部分もあり、それが、生徒の利用頻度にもつながっているのではないかと考えられる。Classi をよく利用していると思われる「ほとんど毎日」と「週 5 日程度」と回答した割合が 21.0%であるのに対し、「ほとんどない」と回答した割合は 50.9%であり、積極的に利用している生徒の方が少ないのが現状である。また、Classi を全く使っていないという生徒も 13.5%であった。学年別でみると、1 年生では「ほとんどない」と「まったくない」が 89.3%で、定期的に利用している生徒は約 10%であった。2 年生では「ほとんどない」と「まったくない」が 41.3%で、定期的に利用しているのは約 60%であり、「ほとんど毎日」利用している生徒も 27.4%いた。その多くは学習記録の入力であるが、教員が定期的に配信しているテスト等に取り組んでいる生徒もいる。また、1 年生では、授業での課題、レポートの配信や提出を Classi 上で行っている教科もあり、1 年生の Classi の利用頻度はもう少し高いのではないかと考えられる。

Classi には、多くの機能やサービスがあり、これからを有効にかつ効果的に活用していくためには、生徒が今後積極的に利用していきたいと思っているコンテンツに対して、教員側からの働きかけや利用しやすい仕組み作りをすることも一つの方法であると考えられる。実態調査からは、1 年生では成績カルテ、学習動画、Web ドリルへの関心が高く、2 年生では学習動画、学習記録、成績カルテ、Web テストへの関心が高かった。学習動画に関しては、ベネッセの模擬試験の結果に応じて復習できるようになっていることから、模擬試験の振り返り時に成績カルテと連動させていくと生徒への動機付けになるのではないかと考えられる。また、学習記録等、目に見える形で生徒が学習時間や科目を入力していくことは、生徒への面談時にも教員がアドバイスをしやすくなることも考えられる。しかし、こういった機能を生徒任せ、生徒の自主的な活動に委ねるのではなく、まず教員側、学校側がアプローチや体制作りをしていくことが、生徒の積極的な活動へとつながっていくのではないかと考えられる。他校の教育用 SNS を利用しての実践報告例でも、教員側の関わりが高いほど、より生徒が定期的に情報等にアクセスし、また積極的に利用する傾向があるとの報告されている¹⁰⁾。また、2019 年度にすでに e ポートフォリオを活用した入試を行う大学もあり、2020 年度へ向けては、さらに日々の取

り組みを記録する習慣の構築が必要になってくるだろう。

5 まとめ

総務省の統計によると、2010年の調査ではスマートフォンの世帯保有率が10%であったのに対し、2年後の2012年には50%を超えた¹¹⁾。内閣府の調査では、高校生のスマートフォンの所有・利用率が2011年度までは数%であったのに対し、2012年には一気に50%を超えた。つまり、2012年あたりを境に、わずか数年で私たちが利用する情報機器はスマートフォンが主流となっていった。その中で、現在の高校生の多くは小学生や中学生の時からスマートフォンを持ち、デジタルネイティブ世代として育っている。スマートフォンはアプリケーションの普及、SNSの台頭、ライフスタイルの多様化など、複数の要因があってここまで急速に普及したのではないかと考えられる。そして、スマートフォンが普及したことによってより手軽に参加することができるようになったSNSは、単なる個人間のコミュニケーションツールとしてだけでなく、社会との繋がりを含むコミュニケーションツールとしても存在しており、現在の利用者数は世界中で数億人規模である。こういったインターネットに瞬時に繋がるスマートフォンや他人とのコミュニケーションをネットワーク上で行うSNSを、小学生や中学生の時から利用する環境にある現在の高校生は、SNSでのコミュニケーションが現実のコミュニケーションよりも頻繁になり、現実と仮想の境目がかなりあいまいな、むしろこれらを別のものとして考えない生徒が多くなっていることが想像できる。そして、この傾向はますます加速していくのではないかと考えられる。こういった中で、SNSの使い方という点では、ネット上でのいじめ、安易な個人情報の投稿、本名ではないからといって他人を誹謗中傷したり、デマの拡散、また犯罪の温床となるなど、問題も多い上に複雑化している。これらは、SNSの普及速度に対して問題の周知が遅れているため¹²⁾、また、様々な新しいメディアに対応した教育が十分になされていないことが要因の一つとされている¹³⁾。

さまざまな情報機器で世界と繋がり、SNSやコミュニケーションツールを含めたネットワーク上でのコミュニケーションは、目に見えないから、トラブルに巻き込まれる可能性があるから利用しないよという指導をすれば、子どもたちがそういったトラブルに巻き込まれることはないのかもしれない。さらに、スマートフォンの利用がそういった危険を促進しているのだから、また、スマートフォンでSNSでのコミュニケーションやゲーム等に夢中になり、それが生活の中心となってしまう可能性もあるから使用禁止という指導も一つかもしれない。本校の調査でも、携帯やスマートフォンが気になって、本来やらなければならないことができない生徒が60%を超えている。しかし、スマートフォンの急速な普及やネットワークコミュニティへの価値観の変化によって、もはやスマートフォンを使ってSNS等のネットワーク上でコミュニケーションを取ることや情報発信をしていくことは生徒の日常であり、これらをコミュニケーションや学習を促進することができる道具の一つと捉えていかなければならない。それを踏まえた上での、メディアリテラシー教育や指導のあり方を考えていかなければならないだろう。これからも情報社会で生きていかなければならない生徒に対して、情報機器を使わせないではなく、どう使うか、いつ使うか、どうやって使うかといった考え方や態度を身につけさせるための教育、さらに、適切な正しい判断ができるような情報提供も必要である。

現在の高校生を含むデジタルネイティブ世代が、ネット・コミュニティを操り、不特定多数の人々と瞬時につながることで新たな事業や組織をつくり出し、従来の常識や価値観にとらわれない考え方や行動力によって、世界を一変させる可能性を秘めているともいわれている¹⁴⁾。そういった新しい時代を切り開く可能性のある生徒とともに、学校での情報機器のあり方について考えていくべき時なのかもしれない。

参考文献

- 1) 内閣府 平成 29 年度 青少年のインターネット利用環境調査 結果速報 3 2018
- 2) 総務省 平成 23 年度版 情報通信白書 本編 88 2011
- 3) 愛知県教育センター 平成 27 年度児童生徒の情報機器利用実態調査 単純集計 (高校生) 2016
- 4) 内閣府 平成 29 年度 青少年のインターネット利用環境調査 結果速報 13 2018
- 5) 愛知県教育センター 平成 27 年度児童生徒の情報機器利用実態調査 単純集計 (高校生) 2016
- 6) 内閣府 平成 29 年度 青少年のインターネット利用環境調査 結果速報 4 2018
- 7) 愛知県教育センター 平成 27 年度児童生徒の情報機器利用実態調査 単純集計 (高校生) 2016
- 8) 大向一輝 SNS の現在と展望-コミュニケーションツールから情報流通の基盤へ-
IPSJ Magazine Vol. 47 No. 9 Sep. 999 2006
- 9) トレンドマイクロ社 -SNS と携帯電話の利用におけるプライバシー意識調査- 2012
- 10) 武井謙治 森 大光 デジタルネイティブ世代の生徒指導を考える-教育用 SNS を活用した学級
経営、行事運営の実践から- 第 60 回全国国立大学附属学校連盟 高等学校教育部会教育研究
大会 生活指導分科会 65 2018
- 11) 総務省 平成 29 年度版 情報通信白書 本編 3 2017
- 12) 大向一輝 SNS の現在と展望-コミュニケーションツールから情報流通の基盤へ-
IPSJ Magazine Vol. 47 No. 9 Sep. 1000 2006
- 13) 上松恵理子 ICT 教育におけるメディアリテラシー教育 情報処理 Vol. 56 No. 4 Apr. 322
2015
- 14) 篠原文陽児 コトバンク 小学館 日本大百科全書